

わくわく中国文化



—中国の世界遺産⑤—

Illustration by KOH_HSL([instagram](#))

中国の世界遺産⑤

「西にローマあれば、東に長安あり」というシルクロードの起点として3000年以上の歴史を持つ古都・長安は、現在の陝西省の省都・西安です。

西安は3100年の歴史の中で、都として1100年の歴史を担ってきました。かつて周、秦、漢、隋、唐など13の王朝が都を置き、アテネ、ローマ、カイロと並び称される世界四大文明の古都として中国文明史に重要な役割を果たしています。

歴史文化の集積である西安には、秦の始皇帝の陵墓をはじめ、前漢皇帝の11陵墓、唐代皇帝の18陵墓があります。また、周、秦、漢、唐の四大大都城遺跡や鐘樓、鼓楼、古城壁など古代建築遺跡は700か所を有し、そのうち2件6か所は「世界遺産」に認定されています。

西安にある「世界遺産」は、(1)兵馬俑、(2)大雁塔、(3)小雁塔、(4)唐代長安城大明宮遺跡、(5)漢代長安城未央宮遺跡、(6)興教寺塔の6つです。前回の続きとして今回は(4)唐代長安城大明宮遺跡、(5)漢代長安城未央宮遺跡、(6)興教寺塔の3つについて紹介します。

唐代長安城大明宮遺跡

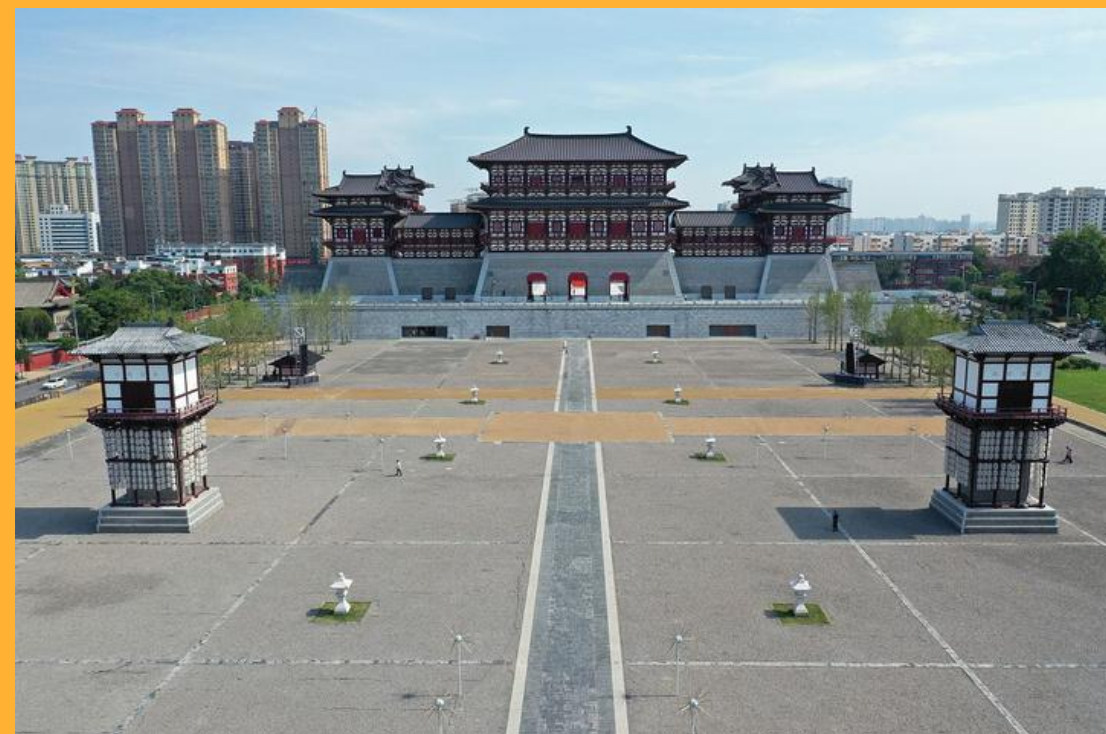
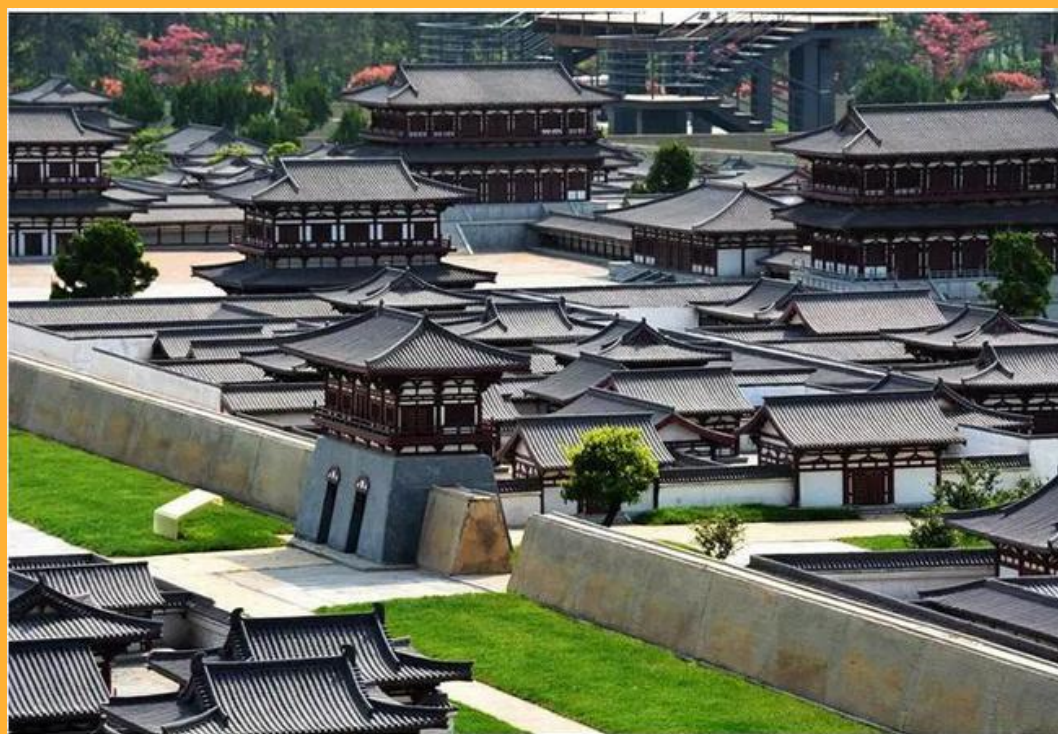
大明宮国家遺跡公園は世界文化遺産で中国重要文化財保護遺跡です。西安市北部の太華南路の竜首原に位置し、大明宮にはその昔、含元殿や麟徳殿、三清殿、清思殿、宣政殿などの宮殿が存在していました。大明宮は唐帝国で最も壮大かつ壮麗な宮殿建築群で、当時として世界最大の面積を持ち、唐王朝の権勢を象徴する宮城でした。面積は3.2km²で、唐太宗貞観8年（634年）に創建され、最初の名称が永安宮で、貞観9年（635年）の正月に大明宮に改名されました。唐王朝200年余りの統治中心として繁栄から衰退のプロセスを経験しました。唐末の天祐元年（904年）に破壊されました。

大明宮国家遺跡公園は2010年10月1日に一般公開になり、面積が3.8km²で、北京故宮の4.5倍です。遺跡公園は唐の大明宮の風貌を可能な限り忠実に復元しつつ、文化財保護に基づいた観光の要素も組み込んでいます。大明宮遺跡の保護は西安が中国全土に先駆けて発展し、そのバランスの取れた発展と科学的テクノロジーによる都市の成長が西安の未来図を描く基礎となり、最重要の文化的象徴ともなりました。このことが世界の古都としての西安を支え、ひいては西安の都市としての特色をもたらすものであることが広く認められ、2014年6月22日、カタールのドーハで開催されたユネスコの第38回世界遺産委員会で、唐長安大明宮遺跡が中国、カザフスタン、キルギス三国の共同申請により、「シルクロード長安—天山路回廊地帯」の一部として「世界遺産」に登録されました。

西安

X I A N

中国の世界遺産⑤



大明宮遺跡公園

漢代長安城未央宮遺跡

未央宮は漢王朝の政治中心と国家象徴として漢高祖7年（紀元前200年）に重臣の蕭何（しょうか）によって監督され、秦章台を基礎として建造されました。

漢長安城未央宮遺跡は西安市の西北部に位置し、中国の歴史上で都を置いた王朝の数が最も多く、最も長期に渡った遺跡です。規模も最大で保存状態も万全です。シルクロードの起点として世界に知られ、その歴史的蓄積と文化的遺産の価値は計り知れないものがあります。

未央宮の前殿は最大規模の宮殿で、歴代最多の王朝が即位の儀式を行い、宮廷の政治もここで決され、歴史上幾多の重大事件も起きています。現在、未央宮前殿の基礎は小山のような土盛りとして残っています。南北に350m、東西に200mで、三座の大殿が連なって南から北へと高まり、最高所が15mで、地固めされた基礎部分は5万㎡、中国に現存する面積として最大、かつ最高高度にあり、最もよく保存された漢代版築工法として注目されています。

漢長安未央宮遺跡が中国、カザフスタン、キルギス三国の共同申請により、「シルクロード長安—天山路回廊地帯」の一部として「世界遺産」に登録されました。



未央宮遺跡

西安

X

I

A

N

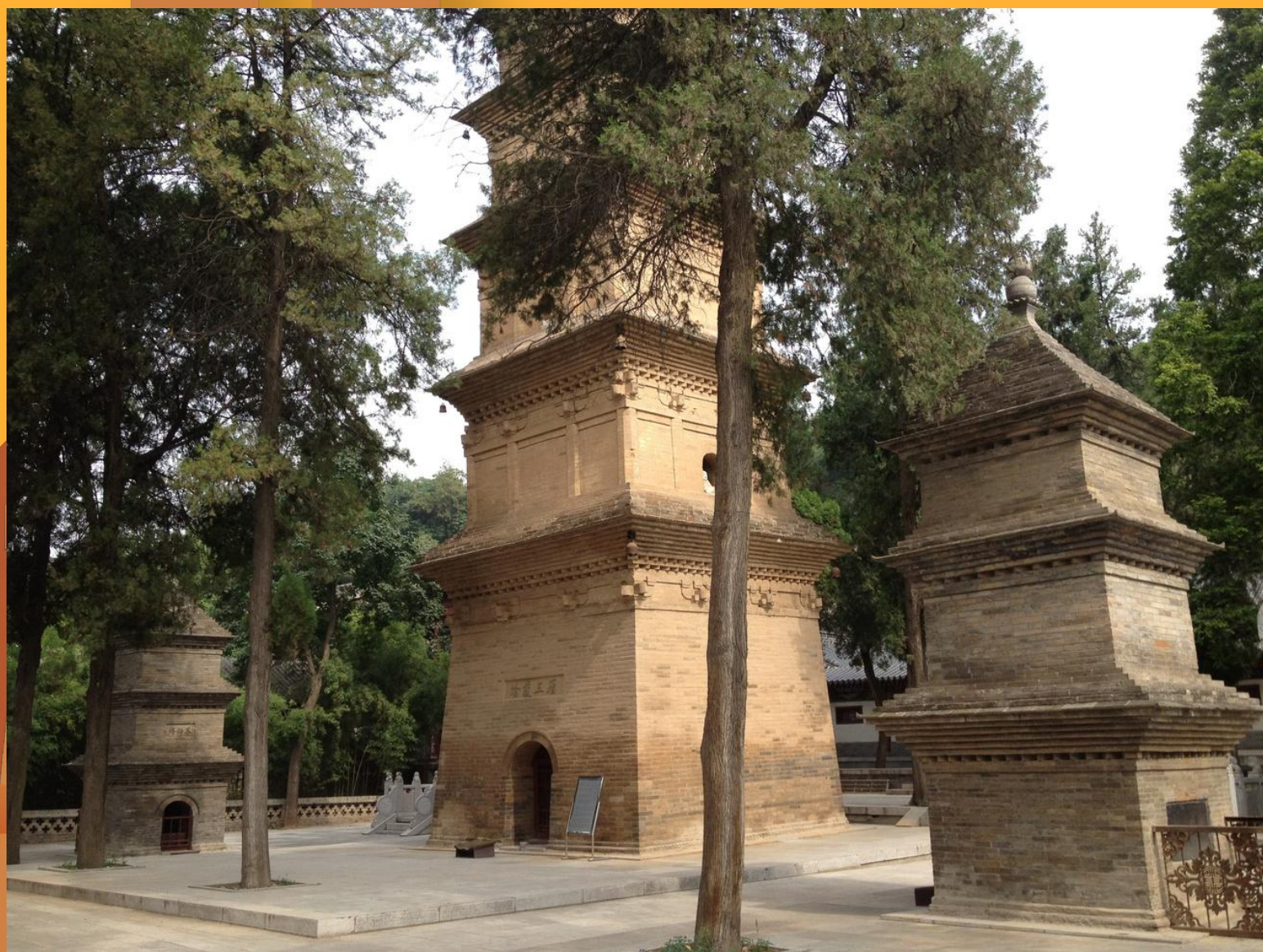
中国の世界遺産⑤

興教寺塔

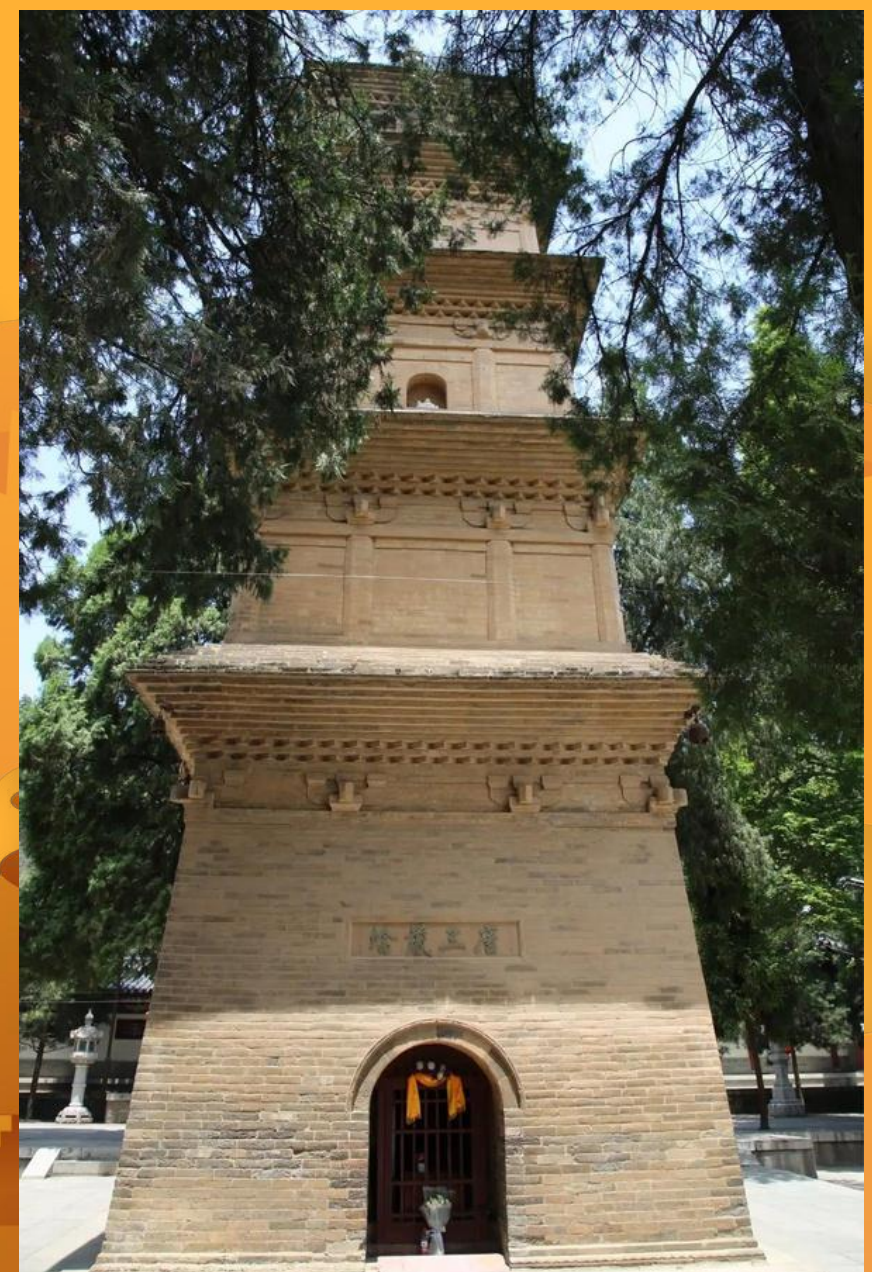
興教寺は「大唐護国興教寺」とも呼ばれます。唐代樊川八大寺のトップで、中国仏教八大宗派の法相宗（唯識宗・慈恩宗とも呼ばれる）の祖庭の1つです。西安市長安区杜曲街エリア内に位置します。

興教寺は唐代の有名な訳経僧（やっきょうそう）・旅行者の玄奘三蔵（三蔵法師）が永眠した地です。玄奘三蔵の二人の弟子もここに埋葬され、玄奘三蔵の傍でお供をしています。

興教寺塔が中国、カザフスタン、キルギス三国の共同申請により、「シルクロード長安―天山路回廊地帯」の一部として「世界遺産」に登録されました。



興教寺塔



シルクロード：長安・天山路回廊地帯

この遺産は、漢・唐時代の中国の中心首都であった長安/洛陽から中央アジアのゼティス地域にわたる5000kmのシルクロードネットワークの一部です。紀元前2世紀から1世紀の間に形成され、16世紀まで使用されています。複数の文明を結びつけ、貿易や宗教信仰、科学知識、技術革新、文化風習、芸術などの活動における交流を促進しました。シルクロードは33の構成要素からなり、さまざまな帝国の首都や宮殿建築群、貿易集落、仏教の石窟、古代の道、宿場、関所、烽火台（のろしだい）、万里の長城の一部分、要塞、陵墓、宗教建築物が含まれています。

西安

X

I

A

N